

人形モデルによる日本人と韓国人の 服装イメージの比較 —日韓の大学生の場合—

内田直子

1. 緒言

人間は服装を見た時、服装から発信される情報より何らかのイメージを抱いている。しかし、日本と韓国の女性の間には、同じ服装でもイメージの抱き方が異なることが認められ、先行研究において報告した（内田等 2002）。本報告ではその結果をふまえながら、両国の男性間でも同じことがいえるのかを含めて、服装イメージに対する両国間の比較、および同国での男女間の比較の視点から検討した。なお、本報告は先行研究の続編であることから、服装試料は先行研究と同じく女性服装を用いて行った。

日韓の服装イメージ調査に関する研究は、日韓の高齢女性と女子学生の服装色の色彩比較（庄山 2000）や、日韓女子学生の民族服に対する意識の比較研究（金、中川 1998）などいくつか見られるが、日韓間およびその男女間でのイメージ格差を言及したものはほとんどない。また、本研究の異国の服装イメージ評価は、世界の衣生活文化における異文化研究として捉えることが可能であり、異文化なるものを受け入れる時の一つの格差指標になると考える。

2. 実験方法

（1）実験試料

実際の人間の着装では、顔から所属民族が判別されてしまう可能性があるため、着用者の民族的な影響が出ないように、中立的な雰囲気を持つ人形に着装させた。ここで使用した人形は、身長26センチ、20代の女性の雰囲気のするもので、（株）タカラのリカちゃんシリーズの一つとして市販されているものを用いた。

服装試料は Fig.1 に示す女性服装とした。その種類として、まず自国や他国への文化、イメージが顕著に反映すると考えられる民族衣装を挙げ、日韓比較のために両国の代表的な民族衣装の「着物」「韓服（チマ・チョゴリ）」と、日韓にとっての異国の服装として「中国服（チャイナドレス）」とした。そして、他に日常的な服装として「紺スーツ」と色を違えた「ピンクスー

ツ)、さらに両国の若者の多くが着用する「ジーンズ」の計6種類とした。

提示試料として、人形にこれらの服装を着用させたものをスライド写真として6枚作成した。

(2) 被験者

両国とも、大学の環境心理系の関連講義に出席した学生で、韓国では、男女とも建築学科に在籍する大学生、男子54名、女子67名である。日本では、男子は建築学科に在籍する117名、女子は建築学科16名と非建築学科の103名の計119名である。この時、女子の建築学科と非建築学科の学生との間での評価の差は無かったため、一括して女子被験者とした。

(3) 評価方法

両国とも、(1)で作成したスライド写真を投影し、各服装ごとにそのイメージをSD法15形容語対7段階尺度で評価してもらった。韓国では、韓国語に翻訳した調査シートを用い、事前にすべて実験の流れを通訳の方に説明し、当日も韓国語の通訳をお願いした。実験は2000年9月に実施した。日本では、同じ形式の日本語の調査シートを用い、2001年11～12月に実施した。

3. 結果と考察

3.1 日韓男女の全体的な服装のイメージの捉え方

服装6種類について、各形容語ごとに、日本女性、日本男性、韓国女性、韓国男性の4グループのSD平均評定値の間で分散分析を行った。その結果、被験者間の有意差は、Table 1に示すように、被験者のグループ間で、どの服種も形容語の9割前後イメージの捉え方が異なっていた。そこで、6種類の服装別に、日本の男女間、韓国の男女間、日韓の男性間、日韓の女性間で平均評価の差の検定を行った。その各両者間でのイメージ評価のt検定結果をまとめたものがTable 2(a)～(d)である。

Table 2(a)に示す日本の男女間では、紺スーツ、着物、ピンクスーツには、両者間のイメージ格差が少ないが、ジーンズ、韓服、中国服には半数以上、両者間でイメージの違いがみられ、全体として、服装6種類に、15形容語で、全部で90の評価のうち、37項目にイメージの差があることになる。

しかし、Table 2(b)に示す韓国の男女間では、ジーンズが他の服より著しくイメージの格差があるが、その他は、ほとんど2、3の違いであり、男女の間でのイメージ差は、前述の日本の男女間ほどないことが伺える。全体として全90の評価のうち、日本の男女間の約半分の20項目にイメージの差があるだけであった。

Table 2(c)に示す日本と韓国の男性間では、どの服装もイメージのほとんど半数以上の違いが見られ、全体として53項目にイメージの差があった。

そして、Table 2(d)に示す日本と韓国の女性間でも、男性同様どの服装も多くの項目にイメージの違いが見られ、全体としては51項目のイメージに差がみられた。

内田：人形モデルによる日本人と韓国人の服装のイメージの比較



着物
*アイボリーの地に
小花の柄



韓服
*ビビッド系ピンクの
チマと青のチョゴリ



中国服
*ビビッド系ピンクの地



紺スーツ
*白のコサージュ付き



ピンクスーツ
*ビビッド系ピンクで
紺スーツと同じ型



ジーンズ
*白のセーターと
ブルージーンズ

Fig.1 6種類の服装試料

Table 1 服装別日本韓国男女間（日女／日男 韓女／韓男）の分散分析結果

形容語対\服装		1	2	3	4	5	6
		紺 S.	Pink S.	着物	韓服	中国服	Jeans
1	個性的な : 平凡な	**	**	***	***	**	***
2	安っぽい : 高級な	***	***	***	**	**	***
3	活動的な : おとなしい	***	**		***	*	
4	やぼったい : 洗練された		***	***	***	***	***
5	女性的な : 男性的な	**		***	***	***	***
6	重々しい : 軽快な		**	***	***	***	*
7	フォーマルな : カジュアルな	***	***	***	***	**	***
8	地味な : 派手な	***	***	**	***	***	***
9	調和のとれた : アンバランスな	*	*		***	*	**
10	日常的な : 非日常的な	*	**	*	*	***	**
11	子供っぽい : 大人っぽい	**	**	**	***	***	***
12	保守的な : 進歩的な	**		***	***	**	***
13	素朴な : 華やかな	***	***	***	***	***	***
14	都会的な : 非都会的な	***		***	***		***
15	下品な : 上品な	***		***	**	***	
各服装の有意な差の項目数		13	11	13	15	14	13

*** P<0.001

** P<0.01

* P<0.05

以上の結果から、被験者間のイメージの差が最も少ないのは、韓国の男女間であり、次が日本の男女間であった。また日韓の女性、日韓の男性では項目の半数以上に違いがあることから、男女間の性差より異国間での差のほうが大きく、服装イメージの評価とは、国民性やその文化、習慣の要因が全体にかなり影響しているのではないかと考えられる。

3.2日韓男女別服装イメージの比較

次に、服装別にイメージ評価をまとめたものが Fig.2(a)～(f)である。その評価の特徴的な点を考察すると、Fig.2(a)より一般的な服装としての紺スーツは、両国男女とも、“やや”「洗練された」、 “やや”「重々しい」とほぼ一致したイメージである。しかし、(8)「地味－派手」と(13)「素朴な－華やかな」では、日本は「地味」、「素朴」に反応しているが、韓国は“どちらでもない”と、韓国男女側と日本男女側に顕著に分かれている。このような両国の差が、イメージの民族間の格差に繋がっていると思われる。

同じスーツでも、Fig.2(b)より色を変えたピンクスーツでは、両国男女とも、“かなり”(5)「女性的」とイメージし、他に(12)「進歩的」、(14)「都会的」、(15)「下品」というイメー

内田：人形モデルによる日本人と韓国人の服装のイメージの比較

Table 2 日本韓国男女間の服装別形容語別 t 検定結果

(a) 日本の男女比較

形容語対\服装	1	2	3	4	5	6
	紺S.	PinkS.	着物	韓服	中国服	Jeans
1 個性的な : 平凡な			***		*	
2 安っぽい : 高級な				**		
3 活動的な : おとなしい					**	
4 やばったい : 洗練された						**
5 女性的な : 男性的な					*	
6 重々しい : 軽快な				***	**	*
7 フォーマルな : カジュアルな	**		***	***	***	***
8 地味な : 派手な						**
9 調和のとれた : アンバランスな		*		***		**
10 日常的な : 非日常的な	*			*	*	
11 子供っぽい : 大人っぽい		*	*	*	*	***
12 保守的な : 進歩的な					*	*
13 素朴な : 華やかな		**		**		***
14 都会的な : 非都会的な	**		***	***		***
15 下品な : 上品な	**			**	**	
各服装の有意な差の項目数	4	3	4	9	8	9
合計項目数 (90項目中の割合)	37 (47%)					

(b) 韓国の男女比較

形容語対\服装	1	2	3	4	5	6
	紺S.	PinkS.	着物	韓服	中国服	Jeans
1 個性的な : 平凡な						***
2 安っぽい : 高級な			**	*		**
3 活動的な : おとなしい						
4 やばったい : 洗練された		*	**	**	*	***
5 女性的な : 男性的な						
6 重々しい : 軽快な						**
7 フォーマルな : カジュアルな						*
8 地味な : 派手な						*
9 調和のとれた : アンバランスな						
10 日常的な : 非日常的な				*		
11 子供っぽい : 大人っぽい	*	*				
12 保守的な : 進歩的な	*					*
13 素朴な : 華やかな						***
14 都会的な : 非都会的な						***
15 下品な : 上品な					*	
各服装の有意な差の項目数	2	2	2	3	2	9
合計項目数 (90項目中の割合)	20 (22%)					

(c) 日韓の男性比較

形容語対\服装	1	2	3	4	5	6
	紺S.	PinkS.	着物	韓服	中国服	Jeans
1 個性的な : 平凡な	*	**		***		***
2 安っぽい : 高級な	**		***	***		***
3 活動的な : おとなしい	*			***		
4 やばったい : 洗練された			***			***
5 女性的な : 男性的な	*		**	***	**	**
6 重々しい : 軽快な		*	***			*
7 フォーマルな : カジュアルな	*	**		*		
8 地味な : 派手な	***	***		***	***	
9 調和のとれた : アンバランスな		**	*	***	*	
10 日常的な : 非日常的な		**			*	***
11 子供っぽい : 大人っぽい			**	***	***	***
12 保守的な : 進歩的な	**		**	***	*	***
13 素朴な : 華やかな	***	***	***	***	***	***
14 都会的な : 非都会的な						***
15 下品な : 上品な			***	**	**	
各服装の有意な差の項目数	8	7	9	11	8	10
合計項目数 (90項目中の割合)	53 (59%)					

(d) 日韓の女性比較

形容語対\服装	1	2	3	4	5	6
	紺S.	PinkS.	着物	韓服	中国服	Jeans
1 個性的な : 平凡な	**			***		
2 安っぽい : 高級な	***	***	***		*	***
3 活動的な : おとなしい	*	**		***		
4 やばったい : 洗練された		***	***	***	***	
5 女性的な : 男性的な			**	**		***
6 重々しい : 軽快な		**	*		***	
7 フォーマルな : カジュアルな	***	**	***		*	**
8 地味な : 派手な	***	***	**	***	***	
9 調和のとれた : アンバランスな					**	
10 日常的な : 非日常的な					***	
11 子供っぽい : 大人っぽい	***			***	*	
12 保守的な : 進歩的な			***	***	***	***
13 素朴な : 華やかな	***	***	***	***	***	*
14 都会的な : 非都会的な	***		***	***	***	***
15 下品な : 上品な	**		***		***	
各服装の有意な差の項目数	9	7	10	10	9	6
合計項目数 (90項目中の割合)	51 (57%)					

*** P < 0.001

** P < 0.01

* P < 0.05

ジが共通している。逆に大きく異なるところは、日本は男女とも、「かなり」(8)「派手」、(13)「華やか」に反応し、これは、前述の紺スーツの時と正反対のイメージを抱いていることがわかる。しかし、韓国は男女とも紺スーツと同様にこの形容語には、「どちらでもない」に近く、(8)「派手—地味」などのイメージがない結果となっている。

民族衣装について、Fig.2(c)より着物は、全体的に日韓男女とも「かなり」(4)「おとなしい」、やや「調和のとれた」を始めとして、全体のイメージの傾向は似ている。ただし(2)「高級な」、(4)「洗練された」、(15)「上品な」のイメージは、日本男性が一番評価が高く、

次に日本女性、韓国男性、韓国女性の順に反応が低くなっており、韓国より日本の方が、また女性より男性のほうが、着物の価値をより高級イメージとして捉えていることが伺える。

Fig.2(d)より韓服は、全体的に日本の傾向、韓国の傾向と国ごとにイメージが分かれる傾向となり、韓国人は、“かなり”（3）「おとなしい」、 “やや”（8）「地味な」、（9）「調和がとれた」、（12）「保守的な」というのに対し、日本人は “かなり”（1）「個性的な」、 “やや”（8）「派手な」、 “やや”（13）「華やかな」という、実際着用している韓国人が抱くイメージと異なったイメージとなっている。

Fig.2(e)より中国服も同様に、日本人は（8）「派手な」、（13）「華やかな」に反応するものの、韓国人はそれらには “どちらでもない” のあたりに反応していることがみてとれる。

以上から、民族衣装は、男女差よりも、より国民差に左右されている傾向があると思われる。上記の服種は、全て女性専用の服装であったが、ジーンズは、男女両者で着用しているためか、Table 2(a)～(d)のt検定結果でも述べたように、日韓の間だけでなく、同じ国内での男女間でも、イメージに差のあった数が他の服装より多く、国民性の違い以上に男女のイメージの違いも大きい結果となっている。特に、Fig.2(f)より韓国男性は、他の被験者ほど（1）「平凡な」、（2）「安っぽい」とは思っていなかったり、他が（4）「やぼったい」と感じている時、（4）「洗練された」の位置を示し、特に、日本の女性が（12）「保守的な」、（14）「非都会的な」と思っているのに、韓国男性は、正反対の（12）「進歩的な」、（14）「都会的な」であるなど、他の被験者集団と違う傾向がある。

事前の来日留学生でのヒアリング調査でも、韓国の男性は、ジーンズそのものはカジュアルのイメージでも上着が背広型であれば、それでかなりフォーマル的とみなされるということから、使われ方の違いなどがこれらのイメージを変えているのかとも思われる。

4. 要約

日本と韓国、男性と女性の各々二者間のイメージの差の結果から、服装イメージの違いは、同じ文化の土壌にある男女間の性差より、異国間での民族文化や習慣の差のほうが大きいことが伺えた。つまり、全体として国民性やその文化の要因がかなり影響しているのではないかと考えられる。その相違には、ビビッド系の色使いのものに対する捉え方が、日本は、かなり派手、華やかに捉えているのに対し、韓国はそれほどでもなく、これは、鮮やかな色彩のマ・チョゴリなど、目に触れる機会が生活の中にあるからと思われる。民族衣装へのイメージも、それを着用する国の人と、それを評価する他の国の人とでは、必ずしも一致するイメージを持っているわけではないことが認められた。同じ日常着でも、男女共に着用しているものであれば、その服装の「使い方」「使う場所」の範囲との関連のためか、異国間だけでなく、さらに男女間でもイメージが異なることが明らかとなった。

内田：人形モデルによる日本人と韓国人の服装のイメージの比較

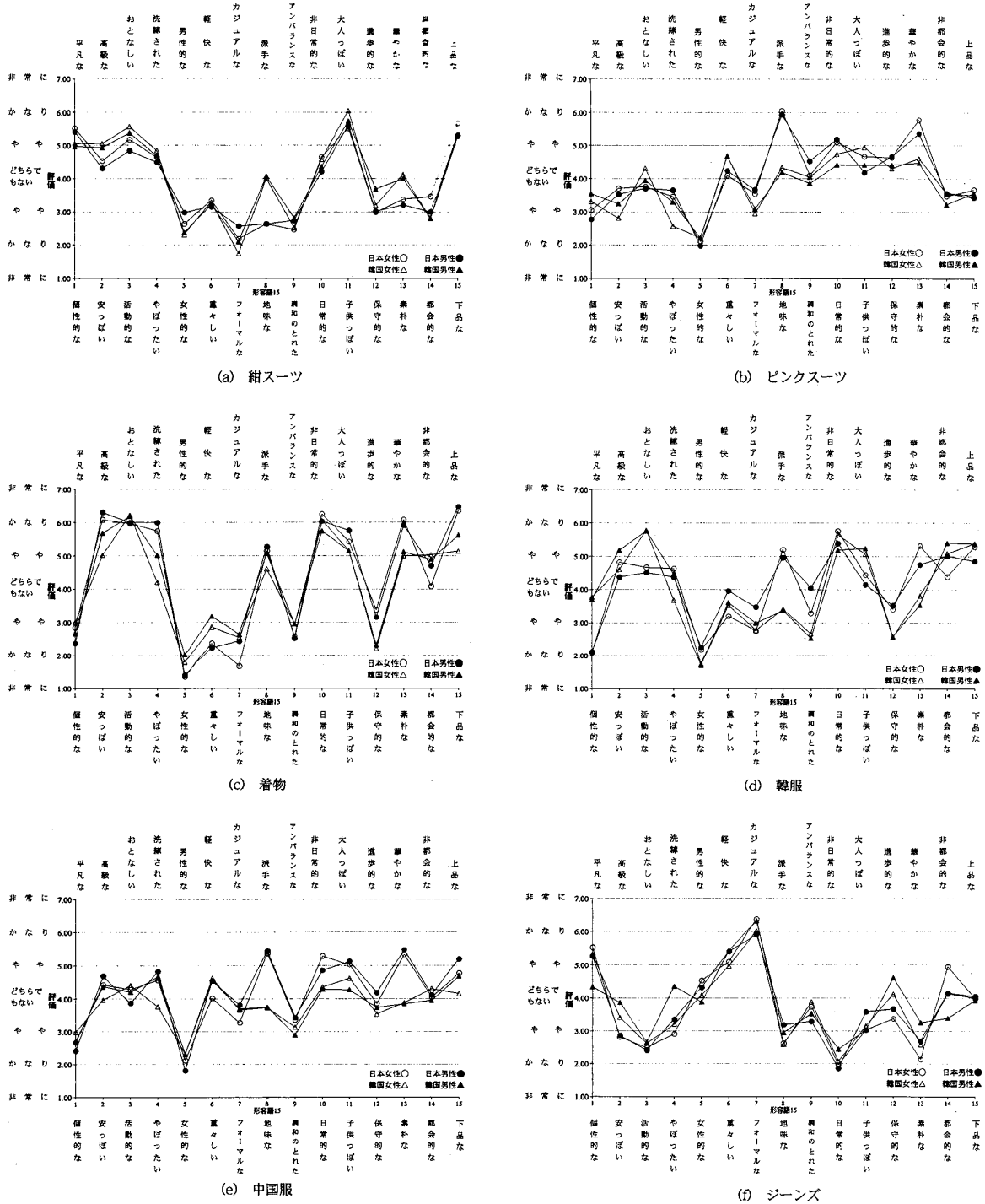


Fig.2 服装別15形容語対7段階によるSD評価結果

謝辞

本研究を進めるにあたり、御指導下さいました共立女子大学の小林茂雄先生、長倉康彦先生、また調査に協力して下さいました韓国・東義大学校の柳浩燮先生、東海大学の山崎俊裕先生にお礼申し上げます。

引用文献

金由美、中川早苗（1998）民族服に対する意識の比較研究—韓・日女子学生の民族服に対する意識の差異—、日本家政学会誌、49（4）pp. 417-426

庄山茂子（2000）高齢者の服装色の好みに関する研究—高齢女性と女子学生の比較および日韓の差異について—、博士学位論文（九州芸術工科大学）

内田直子、小林茂雄、長倉康彦（2002）日本女性と韓国女性の服装における場違い感の比較、日本繊維機械学会誌、55（6）pp. 45-51